

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38902000037
法人名	社会福祉法人 興風会
事業所名	グループホーム ステラ
所在地	愛媛県今治市大西町紺原甲1166-1
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>やわらかく暖かい空気を感じ、穏やかにあんきに生活できるよう支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>造船業の多い町にある事業所は開設して10年を迎え、地域の社会資源として認知されている。その中心は同地域にある母体の社会福祉法人で、関連施設全体で文化祭や地域住民向けの介護教室が実施され、その中で事業所も地域貢献に努め、地域との交流を深めている。運営推進会議には近隣住民が積極的に参加され、地域視点の意見が運営に活かされている。日常的な近所付き合いもあり、事業所内の畑の助言や、自宅で採れた野菜や花の差し入れをしてくれるなど地域との絆が構築されている。その中で働く職員は、「共に笑顔であんきな生活」という理念を大切に利用者のケアに努めている。例えば利用者の笑顔が増えるための「スマイル工場委員会」という名で勉強会が開催されていたり、利用者や家族への感謝を込めてステラ感謝祭が催されるなど、一人ひとりの利用者の生活を尊重し大切にしたいという取組みが見える。その思いが利用者の笑顔に表れ、ゆったりと穏やかな暮らしを継続することができている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

平成 28 年 11 月 10 日

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ステラ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)  
氏名 吉井 恵美子

評価完了日 平成 28 年 11 月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「共に笑顔であんきな生活」という理念を毎日の朝礼で復唱し、スタッフ利用者様共々たくさん笑って過ごせる穏やかな雰囲気を作るよう心掛けています。	
			(外部評価) 理念は開設当初に職員全体で話し合い作成されたもので、利用者の笑顔を大切にしたい、安心してのんびりとした暮らしをしてほしいという願いが込められている。入職時には教育シートにより職員教育を実施しているが、日常のケアを通して自然に先輩職員から理念が受け継がれ、良いケアに繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の薬師堂の念仏講参加したり保育所のお遊戯会にお誘い頂いたり祭りにも参加させて頂いたりしています。畑の作業をしてみると近所の方が声をかけてくれます。	
			(外部評価) 近隣の母体施設を中心にして事業所も高齢者の相談に応じる所として認知されており、介護教室の開催や興風会文化祭などを通して、地域の繋がりが構築されている。また事業所としても、地域の行事に参加するだけでなく、事業所内の行事や運営推進会議に参加してもらう等、近隣を含む地域との交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) お隣の美容師さんに入っていたり、家族会や面会などでホーム内の様子を感じていただいたり、日々、近くのマーケットに買い物に出かけたりすることで、地域の方に少しでも認知症の理解が得られるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の活動を報告し、それに対する意見交換や地域の情報を頂いたりしている。参加されたり利用者様からは会議で出なかった意見なども後から聞くことができサービスに活かす事ができている。	
			(外部評価) 自治会長や市職員のほか近隣の住民が参加し、運営に関する活発な意見交換がなされている。例えば、近くに川があり水害対策をどう進めていけば良いかなど、長年地域の実情に精通している住民の意見を取り入れながら、事業所の運営に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いている他、認知症介護に対するホームの取組みを理解して頂くため情報や計画のやり取りを行っている。日頃からもよく連絡を取り合っており、問題等にも相談させていただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談事を通して良好な関係を築いている。日常の介護保険等の相談は支所へ出向いて相談したり、困難な件に関しては本所へ相談したり、適宜適切な連携を取りながら、利用者の生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内外の研修、書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。身体拘束はしていない。特にスピーチロックを行わないような声掛けをするよう努めている。	
			(外部評価) 研修や日頃のミーティングなどを通し、利用者の自由な暮らしを考えることで、どの職員も拘束をしない意識が自然にケアに現れている。外出願望がある利用者に対して、外出の傾向やくせを把握したり、外出しそうな様子が伺えたら声かけを行う等し、その人らしい暮らしを支える努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設外の研修、施設内での勉強会などや書籍で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。どのようなことが虐待に当たるのか、それに対して通報する義務があるということや、それらが利用者様にとってどのくらい悪影響であるかと意識つけることによって、虐待やそれに近い言動を行わないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 折々の機会に話題に出したり、外部研修似て学んだものを施設内研修、資料回覧などで学ぶ機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には質問しやすい雰囲気づくりを意識し丁寧に説明するよう心がけている他、資料などを用意し介護保険や施設利用に対し解り難い説明にならないように配慮している。解約時にも今後の不安などが少しでも軽減されるよう、その後が困らないように相談にのるなどしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様においては日々の関わりの中から、思い・要望を汲み取るような対応を行うようなところ掛けている。ご家族様に於いては面会時には出来るだけゆっくと話を伺えるような場を作っており、関係も良好で気軽に意見等を聞くことができると思う。	
			(外部評価) 利用者や家族から意見や要望が出やすいように、家族へ手紙や電話で利用者の様子を伝えたり、職員全員が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫している。また、家族会と利用者や家族を対象にしたステラ感謝祭を開催することで、家族との絆を深め信頼関係を築く取組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい取り組みの採用や決定、従来のシステムの見直しなどは全体・各フロアミーティングにてスタッフの意見・提案を反映しおこなわれるよう配慮している。  (外部評価) 管理者はミーティング等を通して、職員の意見を聴く機会を設けているが、日頃から何でも言いやすい関係を築くよう努めている。管理者以外に各ユニットにリーダーを置き、職員の意見を吸い上げやすい仕組みを作っている。その成果があり、災害時の避難の際に誘導しやすいように表札の裏にプロフィールを書くなどのアイデアを取り入れ、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一年間を通して自己課題を設定してもらい、それに対し年二回の管理者面接、年一回のホーム長面接を行っている。その結果は実績・勤務状況も考慮したうえ、昇給額に反映させたり、役職を新たに付ける等、やりがいを持てるような職場になるような取り組みを行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 適宜施設内研修を行う他、法人外の研修についてもできるだけ積極的に取り組んでもらっている。事務所に研修案内を貼りだして告知している他、休みの優遇などを行っている。法人が指名して赴く研修については研修費の負担を行っている。新人職員に関してはお兄さんお姉さん制度設け、1年間研修記録(日記)のやり取りをおこなっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者・職員は外部の研修や相互研修などにて、交流を図り、他事業所の情報の中から自施設にそぐうものを取り入れてサービス向上に役立てている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、しっかりアセスメントを行い、又入居後もご本人とゆっくりかかわる時間を持ち、暮らしの希望・不安を押し量るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には十分に話し合う時間をとり、ご家族の思いを受け止め、少しでも不安が軽減できるよう努めている他、制度や施設について解らないことはないかの聞き取りも行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時の話し合いの中から、支援の見極めを行うよう努めている他、隠れたニーズがないか、見落としはないかアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は日々の利用者様の労をねぎらい、利用者もスタッフをねぎらう。本人ができること見極め、家事などに参加してもらい、共に支えあうという共有感をもって暮らしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 適宜ご家族様に相談・連絡を行い、共にご利用者様の支援を行うよう努めていおる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前友人の方やご近所の方も気軽に来園されている。買い物など外出の際には利用者様の馴染みの場所を通ったりしている。	
			(外部評価) 利用者が大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、本人の日常の会話から汲み取ったりしながら把握する努力をしている。会話の中で、自分の桜山を見たいと要望が出れば、花見に行く計画をしたりドライブを兼ねて生家へ足を延ばしたりと、その関係を断ち切らないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レク・家事等生活の中それぞれが関わり合う機会を多くもち、孤立気味のご利用者様にはスタッフが仲立ちをし、良い関係が持てるように支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了時には、今後も気軽にご相談いただくよう声掛けしている。定期的に様子を伺いの電話や、面談を行ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などからの情報のもと希望や思いの把握につとめている。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は、日頃の会話や家族から情報を得ながら把握し支援に繋げている。例えば、利用者から旅行がしたいという要望が出たため、家族と協力をして思いを叶えられるよう計画をしている。また、意志疎通が困難になってきた利用者については、表情やしぐさ等から汲み取る努力をしている。	利用者の思いや意向は、日頃の会話から把握し、それを叶える努力をしているが、その思いを記録し、職員同士で客観的に共有を図ることが不十分に思える。利用者の思いを記録に残し客観的に共有できるようになると、それが介護計画に反映できるようになり、より一層「ご本人」の視点に立った支援に繋がることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などから情報収集暮らし方等の把握につとめている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その時々々の心身の状態の把握に努め、その時々々の有する能力の見極めをするよう配慮している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 出来るだけ本人参加（難しい場合は聞き取り）家族様は面会や電話連絡の際意向を伺い、担当スタッフが「支援のためのシート」を持ち寄り、検討し合っている。その人らしさを引き出せる計画を立てられるよう研修も行っている。	
			(外部評価) 受け持ち担当制を取っており、担当職員が利用者の要望を家族から聴取したり、日頃の関わりの中から把握し、カンファレンス等で計画作成担当者と共に話し合いながら介護計画を作成している。介護計画は毎日の個別記録のファイルに挟み、どの職員でも把握できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・日報・申し送り等で情報を共有している。日報には日中夜内の特変事項を記録しており共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 母体である幸風園のカラオケルームの利用やデイサービスでの琴・踊りなど行事に参加している。又、希望があれば少人数での外出にも対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) スーパー、図書館、念仏講、地域行事など参加を通し暮らしを楽しむことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個々の希望のかかりつけ医を受診している。ご家族との受診の際に は、介護要約・個別ケアチェック表等で現状をお知らせし、他科の薬 情など共に主治医に届けていただいている。	
			(外部評価) 受診支援は家族が行い、受診内容は家族より伝達を受け、記録するこ とで共有するようにしている。家族による受診支援が難しい場合は、 有料で職員による支援が受けられる。また必要に応じて、直接主治医 と連絡を取り利用者の状態を伝達し、適切に医療が受けられるよう支 援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常における変化や異常など看護師が確認し、必要に応じて受診を 行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期の退院に向け、主治医・御家族との情報交換を行い密な連携に努 めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 見取りの指針を作成し、説明し御家族と週末期について十分な話し合 いを持ったうえ、支援している。	
			(外部評価) 看取り指針はあるが、希望する利用者がいないため看取りの実施例は 未だない。食事が取れなくなり重度化した際には、医療行為のできな い事業所であることを理解してもらい、医療機関や母体法人の特別養 護老人ホームを紹介したりするなど、誠実な対応をするよう努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) どのスタッフにも対応できるような勉強会、書籍回覧等にて学習を重ね、ミーティングや事故対応検討の折など適宜再確認している。心肺蘇生・AEDの講習も受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年二回行っており、隣接の住宅には避難経路も含め協力体制ができています。	
			(外部評価) 運営推進会議などで、近隣からどのように協力を得られるのかなど話し合いながら対策を進めている。また、職員のアイデアで一人ひとりの表札の裏に誘導方法などを書き、非難の際にそれを首にかけて、職員や外部者が避難誘導をしやすいよう工夫している。備蓄品は近隣の母体施設に1週間分備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に一人ひとりの尊厳を意識した、声かけ・対応に努めている。その人ごと受け入れやすい声かけについて毎月のミーティングなどで検討している。	
			(外部評価) 日頃から声かけやコミュニケーションを大切にし、その人自身の思いを理解した上で、誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないよう心がけている。また、日々のミーティングなどを通して、対応した利用者について気がついたことを職員同士で共有できるようにし、利用者が自尊心を損ねないようなケアに繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご家族からの情報や御本人との普段の会話から、その思いを引き出すよう、また、気兼ねなく、希望をいっていただけるような雰囲気づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 就寝・起床・入浴・食事等できるだけ、思いのまま過ごせるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の化粧・髭剃り等の整容、行事等の外出時にはそれにあつたおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段の関わりの中、ご家族の情報などから食事の好みの把握に努め、買い物に出かけたときに食べたいものを買ったりし、一緒に準備・片付けをしている。  (外部評価) 朝昼は母体施設の管理栄養士が栄養面や季節のものを勘案しながら献立を立て、夕食は職員がメニューを考え調理している。お正月のお餅やお節などの行事食や誕生日食などバラエティー豊かにし、利用者が食事が楽しみになるよう工夫がなされている。準備や後片付けを、利用者個々の力を活かしながら一緒にすることで、利用者の自信や張り合いに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は個々の利用者様の食事・水分量の把握ができており、どのようなものが利用者様にとって喜ばれる食事か本部の栄養士に並びステラの栄養士資格保持者にも指示を仰ぎつつ献立を考えている。水分を摂って頂きにくい利用者様には好みのものを提供したり、ゼリーやアイスクリームなど色々アプローチしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援し、口腔状態を把握、適宜歯科受診もおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表・表情・動作から、排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援をおこなっている。オムツから紙パンツへ、布パンツへいった取組みをしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人に合った排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。また、自尊心を損ねないよう、一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ミーティングにおいて共有し排泄介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や影響を理解し、出来るだけ自力で排便できるよう、運動・食事内容・タイミング等の工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日等は決めず、出来るだけ希望にあわせた入浴できるよう支援している。基本的に本人の習慣・意志にて入浴している。介助者が同性を好む利用者様には同性が対応している。入浴拒否の場合など無理強いせず時間や日、対応スタッフを変えて声かけしている。	
			(外部評価) 利用者の状態や負担等を考慮しながら、週3回の入浴を行っている。浴槽が両側から介助できるようになっており、重度化している利用者であっても介護方法を工夫し、できる限り湯船に浸かれるよう努めている。楽しく入浴できるように、音楽をかけたり入浴剤を入れながら様々な工夫をし支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の習慣を継続を意識し、そのリズム・その日の体調にあわせて休息してもらっている。冬場は足浴などの支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録のファイルに薬情をとじており、服薬の変更時には申し送り・記録の徹底をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人ごとのしたい事を把握し、実行できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃の会話から希望を聞きだすよう心がけ、日々の外出先を決めている。現在のところ、地域の方には外出時同行等の協力を得られないが散歩のときには挨拶をいただいたり、安全な歩行の協力をいただいている。家族様と馴染みの場所へのドライブや外食を楽しまれる方もいる。	
			(外部評価) 職員が利用者の希望や季節に合った外出メニューを組み入れながら、月1回のペースで外出計画を立てている。外出は全員で出かけたりユニット毎にしたりと、母体施設のワゴン車を借りて柔軟に行っている。また、スリッパなどの買い物のために外出をしたりと、個々の嗜好や希望等に応じた個別外出支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額ではあるがお小遣いをお持ちになっているご利用者様もおられる。そこから日用品や、嗜好品などの買い物をされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 事業所からの電話連絡の折などには利用者様にも取次し、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 月ごとにフロアーに写真を掲示をしている。夏場には朝顔やにがりのグリーンカーテンで日除けを設置している。又その時期の花を飾ったりすることで季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 共有空間は、季節に応じた飾りが施され、窓からは屋外の緑も見られ、屋内に居ても季節を感じられる。壁には利用者の習字などが飾られており、自分の家だという安心感にも繋がっている。廊下が広く、随所にソファや椅子が置かれ、利用者が安堵感を持ち休憩できる空間となっており、日中は居室以外の場所で過ごす利用者も多い。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにはソファ・テーブル・椅子を多数配置し、疲れた時や休みたい時いつでも休めるようコーディネートしている。見守りがしやすい場所だけではなく内緒話も自由に心おきなくできるようなあえて死角に入る休息場所も作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具等の持ち込みを勧めている。ベットやダンス等それぞれ好みに配置して頂いており、家族様の写真を飾られている利用者様も多い。</p> <p>(外部評価) 居室には備え付けのエアコンやベッド以外にも、使い慣れたテレビやダンス等馴染みものが持ち込まれ、自分らしい部屋づくりがなされている。本が好きだという利用者は読書専用の机があり、ゆっくりと充実した時間を過ごしている。また、若い頃の登山の写真が飾られていたり、昔のことなどを追想しゆったりと落ち着いた気分を味わうことができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に手すりを配置、階段も狭めにとり左右の手すりが使えるように工夫している。居室内は適宜身体機能にあわせ、家具の配置に工夫し安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200037
法人名	社会福祉法人 興風会
事業所名	グループホーム ステラ
所在地	愛媛県今治市大西町紺原甲1166-1
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>やわらかく暖かい空気を感じ、穏やかにあんきに生活できるよう支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>造船業の多い町にある事業所は開設して10年を迎え、地域の社会資源として認知されている。その中心は同地域にある母体の社会福祉法人で、関連施設全体で文化祭や地域住民向けの介護教室が実施され、その中で事業所も地域貢献に努め、地域との交流を深めている。運営推進会議には近隣住民が積極的に参加され、地域視点の意見が運営に活かされている。日常的な近所付き合いもあり、事業所内の畑の助言や、自宅で採れた野菜や花の差し入れをしてくれるなど地域との絆が構築されている。その中で働く職員は、「共に笑顔であんきな生活」という理念を大切に利用者のケアに努めている。例えば利用者の笑顔が増えるための「スマイル工場委員会」という名で勉強会が開催されていたり、利用者や家族への感謝を込めてステラ感謝祭が催されるなど、一人ひとりの利用者の生活を尊重し大切にしたいという取組みが見える。その思いが利用者の笑顔に表れ、ゆったりと穏やかな暮らしを継続することができている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

平成 28 年 11 月 10 日

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ステラ

(ユニット名) 楓

記入者(管理者)  
氏名 吉井 恵美子

評価完了日 平成 28 年 11 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所理念の意識付け・実践の為フロアの目につきやすいところに掲示している他、朝礼での復唱を行っている。利用者様と楽しくお話ししながら散歩に行ったり、歌を歌ったりして、スタッフ・利用者様がともに笑顔になり居心地の良い場所づくりをしている。</p> <p>(外部評価) 理念は開設当初に職員全体で話し合い作成されたもので、利用者の笑顔を大切にしたい、安心してのんびりとした暮らしをしてほしいという願いが込められている。入職時には教育シートにより職員教育を実施しているが、日常のケアを通して自然に先輩職員から理念が受け継がれ、良いケアに繋がっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小西保育園からの訪問や、地域の船神輿を見に行ったりお隣の美容師さんも出張で来てくれている。</p> <p>(外部評価) 近隣の母体施設を中心にして事業所も高齢者の相談に応じる所として認知されており、介護教室の開催や興風会文化祭などを通して、地域の繋がりが構築されている。また事業所としても、地域の行事に参加するだけでなく、事業所内の行事や運営推進会議に参加してもらう等、近隣を含む地域との交流が盛んに行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) お隣の美容師さんに入っていたり、家族会や面会などでホーム内の様子を感じていただいたり、日々、近くのマーケットに買い物に出かけたりすることで、地域の方に少しでも認知症の理解が得られるよう配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヵ月に一回運営推進会議を開催し、事業所の活動を報告し、それに対する意見交換や、地域の情報をいただいたりしている。参加された利用者様からは会議では出なかった意見なども後から聞くことができサービスに活かす事が出来ている。	
			(外部評価) 自治会長や市職員のほか近隣の住民が参加し、運営に関する活発な意見交換がなされている。例えば、近くに川があり水害対策をどう進めていけば良いかなど、長年地域の実情に精通している住民の意見を取り入れながら、事業所の運営に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いている他、認知症介護に対するホームの取組みを理解していただくため情報や計画のやり取りを行っている。日頃からもよく連絡を取り合っており、問題等も相談させていただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談事を通して良好な関係を築いている。日常の介護保険等の相談は支所へ出向いて相談したり、困難な件に関しては本所へ相談したり、適宜適切な連携を取りながら、利用者の生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内外の研修、書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。身体拘束はしていない。特にスピーチロックを行わないような声かけをするよう努めている。	
			(外部評価) 研修や日頃のミーティングなどを通し、利用者の自由な暮らしを考えることで、どの職員も拘束をしない意識が自然にケアに現れている。外出願望がある利用者に対して、外出の傾向やくせを把握したり、外出しそうな様子が伺えたら声かけを行う等し、その人らしい暮らしを支える努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設外の研修、施設内での勉強会などや書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。どのようなことが虐待に当たるのか、それに対して通報する義務があるということや、それらが利用者様にとってどれくらい悪影響であるかということ意識づけることによって、虐待やそれに近い言動を行わないよう注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 折々の機会に話題に出したり、外部研修似て学んだものを施設内研修、資料回覧などで学ぶ機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には質問しやすい雰囲気づくりを意識し丁寧に説明するよう心がけている他、資料などを用意し介護保険や施設利用に対し解り難い説明にならないように配慮している。解約時にも今後の不安などが少しでも軽減されるよう、その後が困らないように相談にのるなどしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様に於いては日々の関わりの中から、思い・要望を汲み取るような対応を行うよう心がけている。ご家族様に於いては面会時には出来るだけゆっくりと話を伺えるような場をつくっており、関係も良好で気軽に意見等を聞くことができていると思う。	
			(外部評価) 利用者や家族から意見や要望が出やすいように、家族へ手紙や電話で利用者の様子を伝えたり、職員全員が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫している。また、家族会と利用者や家族を対象にしたステラ感謝祭を開催することで、家族との絆を深め信頼関係を築く取組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい取り組みの採用や決定、従来のシステムの見直しなどは全体・各フロアミーティングにてスタッフの意見・提案を反映しおこなわれるよう配慮している。	
			(外部評価) 管理者はミーティング等を通して、職員の意見を聴く機会を設けているが、日頃から何でも言いやすい関係を築くよう努めている。管理者以外に各ユニットにリーダーを置き、職員の意見を吸い上げやすい仕組みを作っている。その成果があり、災害時の避難の際に誘導しやすいように表札の裏にプロフィールを書くなどのアイデアを取り入れ、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一年間を通し自己課題を設定してもらい、それに対し年二回の管理者面接、年一回のホーム長面接を行っている。その結果は実績・勤務状況も配慮したうえ、昇給額に反映させたり、役職を新たにつけるなど、やりがいがある職場になるような取り組みを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 適宜施設内研修を行う他、法人外の研修についてもできるだけ積極的に取り組んでもらっている。事務所に研修案内を貼りだして告知して他、休みの優遇などを行っている。法人が指名して赴く研修については研修費の負担を行っている。新人職員に関してはお兄さんお姉さん制度設け、1年間研修記録(日記)のやり取りをおこなっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者・職員は外部の研修や相互研修などにて、交流を図り、他事業所の情報の中から自施設にそぐうものを取り入れてサービス向上に役立てている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、しっかりアセスメントを行い、又入居後もし本人とゆっくりかかわる時間を持ち、暮らしの希望・不安を押し量るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には十分に話し合う時間をとり、ご家族の思いを受け止め、少しでも不安が軽減できるよう努めている他、制度や施設について解らないところはないか聞き取りも行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時の話し合いの中から、支援の見極めを行うよう努めている他、隠れたニーズがないか、見落としはないかをアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は日々の利用者様の労をねぎらい、利用者もスタッフをねぎらう。本人ができること見極め、家事などに参加してもらい、共に支えあうという共有感をもって暮らしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 適宜ご家族様に相談・連絡を行い、共にご家族様の支援を行うよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前の友人の方やご近所の方も気軽に来援されている。外出や買い物の際にはなじみの場所を通ったりしている。  (外部評価) 利用者が大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、本人の日常の会話から汲み取ったりしながら把握する努力をしている。会話の中で、自分の桜山を見たいと要望が出れば、花見に行く計画をしたりドライブを兼ねて生家へ足を延ばしたりと、その関係を断ち切らないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者様同士を隣の席にしたり、孤立気味の利用者様にはスタッフが仲立ちをし、良い関係がもてるよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了時には、今後も気楽にご相談いただくよう声かけしている。定期的に様子伺いの電話や、面談を行ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人との日々の会話や、面会時のご家族の話などからの情報のもと希望や思いの把握に努めている。  (外部評価) 利用者の思いや意向は、日頃の会話や家族から情報を得ながら把握し支援に繋げている。例えば、利用者から旅行がしたいという要望が出たため、家族と協力をして思いを叶えられるよう計画をしている。また、意志疎通が困難になってきた利用者については、表情やしぐさ等から汲み取る努力をしている。	利用者の思いや意向は、日頃の会話から把握し、それを叶える努力をしているが、その思いを記録し、職員同士で客観的に共有を図ることが不十分に思える。利用者の思いを記録に残し客観的に共有できるようになると、それが介護計画に反映できるようになり、より一層「ご本人」の視点に立った支援に繋がることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などから情報収集し暮らし方等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その時々々の心身の状態の把握に努め、その時々々の有する能力の見極めをするよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 出来るだけ本人参加（難しい場合は聞き取り）家族様は面会や電話連絡の際意向を伺い、担当スタッフが「支援のためのシート」を持ち寄り、検討し合っている。その人らしさを引き出せる計画を立てられるよう研修も行っている。	
			(外部評価) 受け持ち担当制を取っており、担当職員が利用者の要望を家族から聴取したり、日頃の関わりの中から把握し、カンファレンス等で計画作成担当者と共に話し合いながら介護計画を作成している。介護計画は毎日の個別記録のファイルに挟み、どの職員でも把握できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・日報・申し送り等で情報を共有している。日報には日中夜内の特変事項を記録しており共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 母体である幸風園のカラオケルームの利用やデイサービスでの琴・踊りなど行事に参加している。又、希望があれば少人数での外出にも対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) スーパー、図書館、地域行事などへの参加を通し暮らしを楽しむことの支援をしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個々の希望のかかりつけ医を受診している。ご家族との受診の際に は、介護要約・個別ケアチェック表等で現状をお知らせし、他科の薬 情などと共に主治医に届けていただいている。	
			(外部評価) 受診支援は家族が行い、受診内容は家族より伝達を受け、記録するこ とで共有するようにしている。家族による受診支援が難しい場合は、 有料で職員による支援が受けられる。また必要に応じて、直接主治医 と連絡を取り利用者の状態を伝達し、適切に医療が受けられるよう支 援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常における変化や異常など看護師が確認し、必要に応じて受診を 行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期の退院にむけ、主治医・御家族との情報交換を行い密な連携に努 めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 見取りの指針を作成し、説明し御家族と終末期について十分な話し合 いを持ったうえ、支援している。	
			(外部評価) 看取り指針はあるが、希望する利用者がいないため看取りの実施例は 未だない。食事が取れなくなり重度化した際には、医療行為のできな い事業所であることを理解してもらい、医療機関や母体法人の特別養 護老人ホームを紹介したりするなど、誠実な対応をするよう努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) どのスタッフにも対応できるような勉強会、書籍回覧等にて学習を重ね、ミーティングや事故対応検討の折など適宜再確認している。心肺蘇生・AEDの講習も受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年二回行っており、隣接の住宅には避難経路も含め協力体制ができています。  (外部評価) 運営推進会議などで、近隣からどのように協力を得られるのかなど話し合いながら対策を進めている。また、職員のアイデアで一人ひとりの表札の裏に誘導方法などを書き、非難の際にそれを首にかけて、職員や外部者が避難誘導をしやすいう工夫している。備蓄品は近隣の母体施設に1週間分備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に一人ひとりの尊厳を意識した、声かけ・対応に努めている。その人ごと受け入れやすい声かけについて毎月のミーティングなどで検討している。  (外部評価) 日頃から声かけやコミュニケーションを大切にし、その人自身の思いを理解した上で、誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないよう心がけている。また、日々のミーティングなどを通して、対応した利用者について気がついたことを職員同士で共有できるようにし、利用者が自尊心を損ねないようなケアに繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご家族からの情報や御本人との普段の会話から、その思いを引き出せるよう、また、気兼ねなく、希望を言っていただけるような雰囲気づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 就寝・起床・入浴・食事等できるだけ、思いのまま過ごせるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の髭剃り等整容、行事等の外出時にはそれにあったおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段の関わりの中、ご家族の情報などから食事の好みの把握に努め、買い物に出かけた時に食べたいものを買ったりし、一緒に準備、片付けをしている。	
			(外部評価) 朝昼は母体施設の管理栄養士が栄養面や季節のものを勘案しながら献立を立て、夕食は職員がメニューを考え調理している。お正月のお餅やお節などの行事食や誕生日食などバラエティー豊かにし、利用者が食事が楽しみになるよう工夫がなされている。準備や後片付けを、利用者個々の力を活かしながら一緒にすることで、利用者の自信や張り合いに繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は個々の利用者様の食事・水分量の把握ができており、どのようなものが利用者様にとって喜ばれる食事か本部の栄養士に並びステラの栄養士資格保持者にも指示を仰ぎつつ献立を考えている。水分を摂って頂きにくい利用者様には好みのものを提供したり、ゼリーやアイスクリームなど色々アプローチしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援し、口腔状態を把握、適宜歯科受診も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表・表情・動作から、排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援をおこなっている。おむつから紙パンツへ、布パンツへといった取り組みをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人に合った排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。また、自尊心を損ねないよう、一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ミーティングにおいて共有し排泄介助に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員は便秘の原因や影響を理解し、出来るだけ自力で排便できるよう、運動・食事内容・タイミング等の工夫をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 曜日等は決めず、出来るだけ希望にあわせた入浴できるよう支援している。基本的に本人の習慣・意志にて入浴している。介助者が同性を好む利用者様には同性が対応している。入浴拒否の場合など無理強ひせず時間や日、対応スタッフを変えて声かけしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態や負担等を考慮しながら、週3回の入浴を行っている。浴槽が両側から介助できるようになっており、重度化している利用者であっても介護方法を工夫し、できる限り湯船に浸かれるよう努めている。楽しく入浴できるように、音楽をかけたり入浴剤を入れながら様々な工夫をし支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご本人の習慣を継続を意識し、そのリズム・その日の体調にあわせて休息してもらっている。冬場は足浴などの支援もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録のファイルに薬情をとじており、服薬の変更時には申し送り・記録の徹底をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人ごとのしたい事を把握し、実行できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃の会話から希望を聞きだすよう心がけ、日々の外出先を決めている。現在のところ、地域の方には外出時同行等の協力を得られないが散歩のときには挨拶をいただいたり、安全な歩行の協力をいただいている。家族様と馴染みの場所へのドライブや外食を楽しまれる方もいる。	
			(外部評価) 職員が利用者の希望や季節に合った外出メニューを組み入れながら、月1回のペースで外出計画を立てている。外出は全員で出かけたユニット毎にしたりと、母体施設のワゴン車を借りて柔軟に行っている。また、スリッパなどの買い物のために外出をしたりと、個々の嗜好や希望等に応じた個別外出支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額ではあるがお小遣いをお持ちになっている利用者様もおられる。そこから日用品やし好品など買い物をされたりお参りのさいお賽銭として使用している方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 事業所からの電話連絡の折などには利用者様にも取次し、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 前月の様子の写真、隔月発行のフロア新聞を掲示している。夏には朝顔やゴーヤのグリーンカーテンで強い光をさえぎったり、その時期の花を飾ったりすることで季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 共有空間は、季節に応じた飾りが施され、窓からは屋外の緑も見られ、屋内に居ても季節を感じられる。壁には利用者の習字などが飾られており、自分の家だという安心感にも繋がっている。廊下が広く、随所にソファや椅子が置かれ、利用者が安堵感を持ち休憩できる空間となっており、日中は居室以外の場所で過ごす利用者も多い。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにはソファ・テーブル・椅子を多数配置し、疲れたときや休みたい時いつでも休めるようコーディネートしている。見守りがしやすい場所だけではなく内緒話も自由に心おきなくできるようなあえて死角にはいる休息場所も作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具等の持ち込みを勧めている。居室に、家族様の写真を飾ったりぬいぐるみを置かれたりし、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室には備え付けのエアコンやベッド以外にも、使い慣れたテレビやタンス等馴染みものが持ち込まれ、自分らしい部屋づくりがなされている。本が好きだという利用者は読書専用の机があり、ゆっくりと充実した時間を過ごしている。また、若い頃の登山の写真が飾られていたり、昔のことなどを追想しゆったりと落ち着いた気分を味わうことができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各所に手すりを設置、階段も狭めにとり左右の手すりが見えるように工夫している。居室内は適宜身体機能にあわせ、家具の配置を工夫し安全にかつ自立した生活がおくれるよう配慮している。</p>	